

芋 讃 歌

芋類は、植物分類学上それぞれ異なるものの、我々の生活に古くから定着し重要な食糧として利用されてきた。

馬鈴薯は初夏を、甘藷・里芋は秋を、ヤマイモは冬の食卓を飾り確実に季節の到来を告げ生活の中の行事・料理の主役として馴じみ親しまれている。

これらの芋類は比較的栽培も容易で病気にも強く良く取れるうえ、貯蔵性も高いことから上手に利用するとなかなか有益なものであり、その恩恵に浴することができる。

戦後の食糧難の時代を経験したのにとっ
ては、芋類は空腹を満たすエネルギー源であり栄養バランスも良いことから大いに作付が奨励され、畑作物の基幹作物として農家所得の確保に当って大きな柱の一つになっていた。

当地においても、甘藷澱粉発祥の地ということもあり、どこの家でも甘藷を栽培し、澱粉工場も盛況を極めていたが、今では昔日の面影はどこにもなく、ただ澱粉工場発祥の地なる石碑が木洩れ日の中に行んでいる。

しかし、我が国の戦後経済の発展と民政の安定のために甘藷が多大の貢献を果たしたことを決して忘れてはならない。

現在、我が国は世界有数の経済的發展を遂げ飽食の時代を謳歌しているが、農業や食糧を粗末にしすぎているきらいがある。

バブル経済の破綻を契機に今後大幅な経済成長は望めず、地味で質素な健全な生活様式への回帰が強く求められている。確かに芋類は、重量作物としての作業性や保守的な味覚から作付が停滞しているものの、近頃の芋類は、品質も食味も格段に向上し、新たな需要

確保対策が追求されて良い。

米余りで生産調整を行っているなかで主食の代用でもないが、「平時にいて乱を忘れず」ということあり、また、我が国食糧自給率向上の観点からも、芋類の広範な利用方法を研究開発し大いに振興を図ることが重要である。

7月に入り、畑の甘藷、里芋、ヤマイモの草取りに追われ、馬鈴薯の収穫を終えたところである。一日一回は、料理に変化を持たせ馬鈴薯を食卓に乗せたいと考えている。

極論かもしれないが、芋類主食の家庭があってもよろしいのではなかろうか。ちなみに我が家で提案したものの、妻や子供の賛同を得るに至らずにいるが子供達が成人し別家庭を持った暁には、芋類主食の生活様式に挑戦するつもりである。

決して、米不足の食糧難の不幸な時代の再来を望むものではないが、来てしまってからでは遅すぎる。ゆとりのある時に芋類利用の位置付けを鮮明に掲げることこそ国家百年の計にかなうものと深く信じるものである。

驕るものは久しからず、ただ、春の夢のごとし。太平の夢を貪ることなく、食糧の大切さを国民は認識すべきである。

(千葉市中央区千葉寿町373

内田 耕 農業)

〈投稿をお待ちします〉

- 当財団では「いも類振興情報」への皆さまからのご寄稿をお待ちしています。いもの作付・育成から加工・消費まで、幅広い範囲でのご意見を氏名・住所・職業を明記のうえ、お寄せください。
- 原稿は600字～1200字で当財団あてにお送りください。採用原稿には当財団の定めによる薄謝を呈します。ご協力のほどをお願いいたします。